



「復活された主がわたしの名前を呼んでくださっている」

2025年4月27日

にっぽんせいこうかい はちのへせい きょうかい
日本聖公会八戸聖ルカ教会

かんりぼくし しさい ステパノ こしやま てつや
管理牧師 司祭 ステパノ 越山 哲也

イースターおめでとうございます。春の訪れと共に今年もキリスト教会の最大の祝祭日であり、主イエス様のご復活を祝う復活日を迎えました。今年も東西のキリスト教会の復活日が同じ日4月20日となり世界中のキリスト教会が主のご復活を祝う大きな恵みの年となりました。

キリスト教の最大の祝日はクリスマスではなく、イースターです。聖パウロが「キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です。」とコリントの信徒への手紙Ⅰ第15章14節で述べています。

最初の復活の証人になったのは主の弟子ではなく、婦人たちでした。

彼女たちは愛するイエス様のご遺体に香料を塗るために朝早く出掛けていきました。それにも理由があったのです。それは律法で安息日の労働が禁じられていたからです。それで本当は一分でも早く行きたかったのだと思いますが、安息日が明けると朝早く出掛けていったのです。ところがそこにはイエス様はいませんでした。イエスではなく、2人の輝く衣をきた人が立っていました。彼らの言葉を聞いてはっと彼女たちは思い出しました。「あなたがたが復活の証人」になりなさい。

私たちが忘れてはいけないことが2つあると思います。それは「イエス様の言葉を忘れないこと、忘れても思い出すこと」。そして、もう一つは「私

たち一人ひとりが主の復活の証人」であるということ

ことです。婦人たちが伝えなければ弟子たちは主の復活を知ることは出来ませんでした。そのように私たちは一人でも多くの人々に主の復活を伝えなければなりません。私たち一人ひとりが奉仕の業を通して、神さまの恵みを表す器とならなければなりません。

「マリア」と呼ぶ声によって彼女は園の番人だと思っていた人が主であることに気づきました。私たちが自分の名前が呼ばれた時に自分の存在を確認します。

私たちの「存在」そのものが主の復活を証しています。生きていること、生かされている恵みに感謝したいと思います。

復活された主イエスが私の名前を呼んでくださっています。主のみ声に聴き歩むわたしたちでありたいと思います。

